

金瓶梅



上

新板

金銀万能丸

上

新本

天喜

中布喜

金銀万能丸

目録

不谷文庫

只識藏

圖書印

只識藏

一 義照乃んの花

義乃世と云内義系中將

一 一ゆがもぬ道はま

林小きれ一知と人性子

一 寝耳ふ入道の境
るぞいせらるゑと笑ふ

一 同好の人 若く菅笠
作勢乃のそめ終

一 猿硯あけしは湖
待舟の當座の敷

一 佛と金程れきり
系小付とせりなふては

柗らの物ころりかゝるゑとれやまふ
く我のころりしうとてか
義政云おくがきにくせたまひ
にんせ入るがけ角さ云義と
一 おもくよあうふか
かめうあむと川心此さ
とあうんしもの物ころり
みさねとあれるふや
と永正乃ま清ま
うとあうふあれど
はねらるるあふ

ちくをきとて大樹と大樹とせし
 掩へよ大君おほきみ一カ米いんぎをほせたまむ他たに
 大樹ふありとてさるは徳人ちからを神明かみとせし
 とてすもあま三敷けうの石と洞おほいとせし
 掩へあり人ともともとてし
 とてのちよもとほきとちとて地と
 しとてちとて孔とてふかあひ外ちとて
 とてしとておのちよもとてつとて家神
 の乃のきとてあまとてまゝあまのあまはまゝ
 ちとてしとてあまらとてあまらとてあまらとて

す傍れ世の人をまゝとれ父母とあは
あゝとほゆるのこそかみきくに
かゝる免ぐたき世ふむまれぬるあらう
あゝかゝるごとくむや

正二位太政大臣公卿席之

文龜三年孟春朔五日

家^{いへ}に人^{ひと}皇^み百^{もも}何^{なん}代^{だい}後^ご出^で津^つ門^{もん}院^{いん}北^{きた}津^つ守^し武^ぶ取^とハ
東^{とう}山^{さん}及^{およ}津^つ世^{せい}の^の中^{ちゆう}時^じ長^{ちやう}亭^{てい}元^{げん}季^き秋^{あき}北^{きた}津^つ守^し
このむう山^{さん}北^{きた}津^つ守^し小^こ萩^{はぎ}原^{はら}の中^{ちゆう}おや
りける人^{ひと}おりけるが家^{いへ}おれに
よかよくかみ神^{かみ}原^{はら}の逢^あ人^{ひと}よくあ
けるある目^め北^{きた}津^つ守^しの比^ひとやに
も人^{ひと}のうやまいあふあふ一^{ひと}如^{ごと}上人^{じやうじん}
とくハ家^{いへ}兼^{けん}学^{がく}北^{きた}津^つ守^し又^{また}その比^ひとや
に賢^{けん}人^{じん}ありや人^{ひと}とくはやまて
れ人^{ひと}は性^{しやう}子^しとく人^{ひと}ありさるる人^{ひと}なり

りあり伏羲もよくに拙しき免なきむし
よる皇堯王にむしきよく天地の常を
ありあり乾坤ものとしてみかき儒のあ
らむといふありし釋の三人の仁才
子と震旦に流るし三聖人とするなり
片腹して記統法をあらわし孔子をふん
ありは震旦よりは聖人なるや凡佛ハ
穆王の時代より震旦より儒のや
早く表たる時よりあり然とも孔夫子あり
よひておとろくありしをいふたの

たすい想といふもよくぬに二如上人の才は
きよくよくあり穆王の時代よりあり
ありありとやおもふ量教あり七
仏乃說法も皆是釋の佛に説きあり
今日にありても法をひらむる僧のみ
是れありあり一國一釋とて三子累に
あり小出ありしはありし儒の次
才をうけたまふんとあれは我の時に
れよくありと大概とあり是れよく
去の七仏も釋の世も劫へありしれよ

二程のつ人あまうるあつたにも揚龜山謝
上蔡すくまうり龜山より謝仲素に
うへ仲素より李延平ふつて元正
より朱文公より楊文公に書と信
己の信を信して世をさるるあふ世
儒をとる信ふはとむるものみかたに
かたあふ中より人れいささう
のさうひともく信法乃信弟をさう
ふまふ年とてくあるといふもか
つさかういふその時蔡京中お

家ひけるはうへ人れ信法をさう
あふ中も根えとわさうあうて枝葉れ
編はさぬものあり根え乃信とさうぬれ
む枝葉はさぬとてあうて物さう
あふといひなふ人れさう根え信法
と根えとさうぬものとおやあやうば
信法と信法とさうあきけりさむま
小の身あり信法とさうあきけり又信法
せぬ信法と信法とさうあきけり又信法
のあふ通とあうて信法とさうあきけり

即身是仏あり無心是位あり二心とて
 了ぬ事ぶる自性一萬境やむなる一教は位
 座外の尚神皆如來此の如くあり
 とある一仏法は教密二法あり。教は
 小の如く聲念唯の如くは位とん
 密は教より月輪より教に施
 尼と備一は念珠とあり一は
 事理俱密の義とあり一切衆生は
 心とて心とて心とて唯心は位あり
 此は清浄ある尚神は位は十方三

の徳は心とて心とて心とて心とて
 何とて心とて心とて心とて心とて
 けきには教密乃中物の心とて心とて
 の海理と儒乃此海理も心とて心とて
 も心とて心とて心とて心とて心とて
 夫因は神乃心とて心とて心とて心とて
 ああ心とて心とて心とて心とて心とて
 地宝山記曰く心とて心とて心とて心とて
 花蔵世界は心とて心とて心とて心とて
 梵王宮小居一下之清位とて心とて心とて

饒鬼とあづあ右の汝とを畜生とせしめ
 たるもむくいあふたを畜生とせしめけみ
 ものと穢界にすめたまひくはあふた
 うと信とあふく十男なりひと具一不
 摩訶遍の汝とをくともあふたを九
 億四万三千七百九十二神と上首とて
 尊し小女は安男をいづく大神通カ海
 くて不生神ありとよりも来るあ地
 とるも生ぜあえ来るふそれ神也尤カ
 ハ子め百七十三神を上首とてくたに

神をとおう人界に大威神カあり
 てそのあふたをくそ三ありあふた不ぬ
 うりれいあく宗廟三男とてく一終ふ
 有又目をあふく母と一母とてく父と
 とわや海川くまうたなりれ四とす一海す
 そのすぐこ目勝乃とてくあふたのん海れとく
 我のあふたみ天のとてくうれ海地乃とてく
 有又善夜と信一ををたさむ家とてく
 神とあふたあは念我とてくあ
 夫一切乃信はあふたの海くあふた海れを

うゝ人む根^ね此必^{かならず}いふおつるふあ大^{たい}織^{おり}
冠^{かん}此^こいふく^く空^{くう}唯^{ただ}一^{いち}神^{しん}此^こさ^さ地^ちとそ^そ出^い
籍^{せき}とそ日月^{にげつ}とそく^く徳^{とく}明^{めい}とそ^そ此^こ所^{しよ}
純^{じゆん}一^{いち}世^{せい}難^{なん}此^こ意^いあ^ああ^あに^に儒^{じゆ}粹^{すい}此^こ三^{さん}
教^{きやう}とあ^あとせ^せあ^あの^のれ^れど^ど母^{はは}唯^{ただ}一^{いち}の^の洞^{どう}文^{ぶん}
の^のく^く免^{めん}神^{しん}此^こ光^{かう}華^かさ^さて^て廣^{ひろ}く^く三^{さん}
教^{きやう}の^の文^{ぶん}字^じとあ^ある^るも^もい^いち^ちち^ち家^か此^こ例^{れい}
源^{げん}とき^{とき}そ^そ免^{めん}人^{にん}が^がた^ため^めあ^ある^るが^が文^{ぶん}あ^あん^んの^のは
ま^まく^くげ^げう^うあ^ある^るん^んあ^ある^ると^とあ^あれ^れば^ば此^これ^れも^も
此^この^のと^とそ^そへ^へも^もあ^ある^るあ^ある^ると^とい^いふ^ふも^も母^{はは}

ものく^くれ^れん^んあ^ある^る根^ねと^とす^すく^く末^{まつ}と^とさ^さる^る
少^{せう}く^くこ^こ免^{めん}何^{なに}れ^れこ^こ免^{めん}震^{しん}旦^{たん}あ^ある^るは^はぬ^ぬる^る力^{りき}
に^にそ^そも^もう^う儒^{じゆ}粹^{すい}此^こと^と根^ねえ^えあ^ある^るせ^せ免^{めん}
家^か神^{しん}あ^ある^るは^は生^{せい}と^とい^いふ^ふが^が神^{しん}明^{めい}此^こ神^{しん}代^{だい}
王^{わう}あ^ある^るぬ^ぬる^るさ^さる^るは^はあ^ある^る人^{にん}に^にさ^さる^るは^は
天^{てん}竺^{ぢく}人^{にん}震^{しん}旦^{たん}人^{にん}あ^ある^るへ^へ一^{いち}の^の子^し解^{かい}る^る能^ね
あ^ある^る神^{しん}明^{めい}乃^のを^を一^{いち}へ^へは^はあ^ある^るさ^さる^るた^たる^るむ^む
免^{めん}此^こに^に人^{にん}と^とい^いふ^ふも^もあ^ある^るり^りも^も信^{しん}家^か
屋^いけ^けさ^さる^るも^も神^{しん}明^{めい}の^の教^{きやう}と^と儒^{じゆ}粹^{すい}乃^のあ^ある^る成^{せい}
日月^{にげつ}また^{また}さ^さる^るく^く免^{めん}を^をい^いふ^ふ神^{しん}明^{めい}此^こ人^{にん}

從法よりいふは是を志すむるはさう
 一人は根毛頭よりあり九万八千七十二
 神ありこれと志すむるは神の元を
 もくもく志すむるは弘法を志す
 是れ少くはけりときげども志す人あり
 て教をよめりあるのち神を信受して
 ち少くはききし人ありて天地れも
 信のよりも鬼畜れも草木乃ち人も
 らかこれ神ありその中より人万物の元
 にて信神の長ある人よきと信する

是れ教ありて人ありて神の元を
 ち先とけりめとて先よりあり
 ともいふてはちのちありあるあり
 頃曰宗方法一源信縁因基志ははの
 くも神の元のみとありとよくたも
 その人よ儒も神ありては人よ
 うち小朋友の海とありては人よ
 ち人神ありては人よ
 ち人神ありては人よ
 大孝なり神とよく志すは人よ

と地よほけきまことあるうみ神のめく
みひろきうかば君のちとくふくれ派
せきあへあもあけむぐー山れ端小
日端のかりけきまこと如上人のひく
ざや性子中お後を先達よりて宗廟
小系えせんといへ性子ももいともそ
その目乃年れくならりよ教をうち立
けるが中おのこまひいへんきともめ
くして伊勢へゆくむとくををたこ
ーたまへみこのくばりあもくあかく

ゆねくるがあももまうてむつーき年ふも
いね物くうきうてむれゆるとそふ
よくて我れもむたら路へく国に人
みかあけりよく教をひぐられざるがに
れ宮川系乃やうりむく中おのこま
ひけるもともすぐけう人か物かうり
よんとくー先ゆるよあのを等かか
にふもあてうね梅りあーけるふく
さうこのひびきあれたまうてこれあぐ
さみよるあ人あてはる人のようあ

うらうらと海を渡るもよそをみれば
おもひはるかにせんものさしひけれ
一如上人も世もあつともといふも
うらうらとあつとけりてははれ
ちりてははれも中におまひさる人
みづもへり乃ち根のうももみ
あつてははれは錦とさすけり
都のもきよりけりとも
うらうらとあつてははれは錦とさすけり
都のもきよりけりとも

花あつてもよけりとも
あつてもよけりとも

世の山とあつても

山頭尊護皇城 一鏡玉盤契四明
三智松風恒凛々 浮雲晴去胸襟清

中におまひさる人
たれもあつても

すもあつても

乃ちあつても
あつても

たゞありしらくもありがさきそのハ金^{かね}あそ
る^{もみぢ}ゆるじえ孔^{くわう}お繋^{つな}もあづくれ^れる^る乃
しきえ横^{よこ}河^がの月^{つき}も金^{かね}があくてさうふ
やうくもありしらくもあつた^ただ
世界^{かい}も黄金^{くわんごん}をさくさうそ地^ちも人^{ひと}百^{ひやく}党^{たう}
万物^{ばんぶつ}もそのやうれ^れる^るもさか金^{かね}ふ^ふお^おさ^さり
ゆる^{ゆる}なりと伝^{でん}も^もろく^く口^{くち}をきく^くた^たま^まへ^へも
七^{しち}宝^{ほう}乃^の宝^{ほう}物^{ぶつ}はま^まぐ^ぐ金^{かね}銀^{ぎん}と^と後^ごた^たま^まひ
と^とろく^く乃^の淨^{じやう}土^ども金^{かね}銀^{ぎん}乃^の莊^{しやう}嚴^{げん}を^を牙^がと
せう^{せう}子^しも^も子^しを^を今^{いま}自^{みづか}の^の秘^ひ授^{じゆ}人^{にん}に^にと

卷之六

くさしめおまゝに物を加へり乃てられ
たり。おまゝの神も金銀あくてハ
あまごころその子おまゝの比もはる
きけハおまゝの比良れ社乃ておまゝの
しものもあらをあげうちおまゝ神
石をもつてしはおまゝの
あらふおまゝ一人乃ておまゝあり
はあまらうの指のたまはるしき
やうておまゝの物おまゝと
おまゝおまゝの方へつり
おまゝのちり

乃めいぞんとくへくしてをせむう
へくごに毛人ぞもよき者あり
半もうもくうひゆるいーやれ上
まばうりもくもあくはちすふたのも
ー此ものありとく又法中やうちゅうにありぬ
れみか今のめすところありあうく
こごひ方物乃長して乾坤えんこんのたう
き上じやう妙めう宝珠ほうしゆとくあり又はすき
し比沙ひしのふ難波なんぱれ墨は徳大史と
くやーきものありあうくもくともみ

さうけふる男おとこ子め人女によう子三人ありける
その徳大史とくだいしいひきふ嬌けう子乃大郎だいろう也
飲のむあれむ難波なんぱの墨乃伯人はくじんとあきん
とく大郎だいろう一人は田島でんじまのうもせむづり
あうふもあまうるわきう人のむもあを
とくんとくあある人をたのこく官位
の殿上人てんじやうじんなり一人乃むもあをむ人と
またあま男乃徳とくをきうひひせえ
とく生なま京きやうをせむれ物のうひとあわ
あてぶるもの事うりりせ天下れ評ひやう

定流乃うへいそせを習れ人々に
 毎日をうめものおどしてなつひける
 ぶちうき此大名のとりもたらふと花
 乃流西れ市あ流はあうくくられ難
 波接はあうはあ流はあうくく男徳を所
 とバ位たうきおあうせんくひえの心
 ののせお流院の大徳は乃流見ふお
 ーいあハ卿云とく山の太流あをが
 ぬものあーい男をハああうくく
 下あこれあうあの大おといさうふれ能

新いふあーい男乃流あ所を神
 乃我あうせ神とよせんくド能あ
 に流うー人あまうつけをき神たあ
 らうせこのはきうげむ尾張のあ勢田控
 友ああ乃流とうけぬさくむとえん三
 人と三人ハああ人乃室とああ人ハ
 何の大細とあうんハ流あれ因室と
 あう人ハ河田のあ自利官の流あふ
 あううくくげうとああうの流あ
 史がああよりあうおうりぬあれハ金あ

まじたりきくらゐよのやあよき縁を
ととり。ちり智^ち識^しふあり神^{しん}たをあり。
あきき侍^しはなるや眼^{がん}あ^{ざん}あ^{ざん}あ^{ざん}たぐ
う。れ聖^{せい}徳^{とく}たのしみたまへとく
うき世^よ八^は合^がの世^よといふや中^{ちゆう}拍^{ぱく}夜^やも
一如^{いちに}上人^{じやうじん}も性^{じやう}ふもふくありたまふぞ流
いとおー乃^の人^{じん}とふかあくれ儒^{じゆ}は仏^{ぶつ}
后^{こう}の智^ち恵^えどうひれく人^{じん}やうくたう
たまふすきう。あ^あのあ^あの物^{もの}ううハ
あ^あのう。れものといふ人^{じん}の人^{じん}と

さうもなまふか縁^縁物^{もの}ううにるやあ
く。さあぞ。のらふれくあ
とあやまふけあ



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, enclosed in a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style. A small rectangular stamp is visible near the center of the page.



110X
229
2